

Profile

1958年群馬県生まれ。1980年～92年毎日新聞記者。その後文筆業・出版業。食文化・料理・地域活性化・葬送・介護などで取材・執筆。出版社「言視舎」（東京都千代田区）編集委員。

2017年4月より明和学園短期大学客員教授。

「地域文化論」「生活と情報社会」などを担当。

2014年から群馬県文化審議会委員。

著書に『群馬の逆襲』（2010年、彩流社）

『今夜もおっきりこみ』『家庭料理が幸せを呼ぶ瞬間』『情報を捨てる勇気と表現力』『夢に住む人 認知症夫婦のふたりごと』など多数。

得意な料理の腕を活かして日々の食事の支度など家事を受け持つ。藤岡良のペンネームによる単行本『主夫っていいかも』（1999年、彩流社）は世の主夫本ブームの先駆けとなった。



学生へメッセージ

みなさんは何のために学ぶのでしょうか。言うまでもなく「かけがえのない人生を有意義に、楽しく、力強く生きてゆく」ためです。「自分に自信を持つ」「自分自身の可能性を信じる」ための材料を見つけるためでもあります。

何十万年も前、「お猿さん」に近かった私たちの祖先は、火と出会い、料理を始めたことで豊かな食文化を築くと同時に、高度な精神性・社会秩序・他者への思いやりなどの特性を身につけました。お猿さんから「人間」に進化したのです。だから食文化は人間社会の基本なのです。

「地域文化論」の授業では、そんな考え方を基本に「群馬の、日本の、世界の豊かな食文化」について、みなさんと僕とで考えていきます。

「生活と情報社会」の授業ではインターネット・SNS・AI全盛の中、あふれる情報をいかに有効に使い、情報発信の便利さと怖さを理解し、自分独自の「自己表現」「自己実現」をするためには何が必要かを、いろんな題材をもとに考えていきます。どちらの授業も、みなさんの「人間力」を高めることが一番の狙いです。でも堅苦しさは禁物。全員で語り合いながら楽しく学んでいきましょう。